

音源の選択は真剣勝負！

## プロローグ

料理人は（当然）素材にこだわります。そして丁寧な下ごしらえ。

こちら音源としてのアナログレコードは全てクリーニング、ジャケットの汚れも清掃、必要ならジャケットの補修をしてインナーは「角丸中開き」に交換するという具合です。要するに手間を掛けるわけです。ですから素材（＝レコード）選びは真剣にならざるを得ません。元々ダメな盤にいくら手を掛けてもどうにもならないからです。

改めて料理とレコード再生を比較してみますと：

素材選び	↔	音源の選択
下ごしらえ	↔	クリーニング&ジャケット手入れ
調理器具	↔	再生装置
メニュー&料理	↔	再生対象レコードの選択
食す	↔	聴く

## 本論

さて、アナログレコードの再生を再開して早や5年、段々と何故昔は音楽の持つ力を感じることが出来なかったのか、その全体像が見えてきたように思います。

理由が明確な事ごともありますが、いまだ何故そうなのかよく分からないこと、しかし現象としては間違いなくこうだということもあります。

思い起こすと、小学生の頃に鉱石ラジオを作り出し、10代の頃にはオーディオマニアという程ではないけれど、世間並みにはオーディオ装置との係わり合いはあったわけです。しかしレコードとかFM放送の録音を通して音楽の力を感じたという記憶はありません。おそらく多くの方がそうだったのではないのでしょうか。

その原因はひとつではないし、人によっても違うとは思いますが、主要な原因のひとつが音源としてのレコードにあった事は間違いありません。つまり、例えばソニーが発売したレコードは米国のレコード会社のオリジナル・マスター・テープのコピー・テープを音源としたものであったため、オリジナルの音源が持つ音楽の力はそもそも損なわれていたと言ってよいでしょう。

レコードは高価だったし、それが「磨り減る」（針も消耗する）ことを防ぐためにレコードをカセットテープに録音し、普段はカセットテープを聴いていた人も多かったと思います。こうなると音楽の力はますます損なわれることとなります。

そして、音質の問題は機材のせい、高級機を使えば音質は向上すると（私も含めて）多く

の人がこうした考え方をしていたように思われます。

しかし音源の音質の問題を機材で改善出来るわけではありません。多くの人がオーディオに見切りをつけた理由の一端はこんなところにあったのではないのでしょうか。

その後、音源の問題は更に複雑化してゆきます。

それは 1970 年代後半の録音スタジオのデジタル化、既存のアナログ・マスターテープのデジタル化であり、とどめの一発が 1982 年の CD 登場です。

なかなか思うようにならなかったアナログレコードの世界に見切りをつけて CD 再生に乗り換えたオーディオマニア、音楽ファンは多かったのではないのでしょうか。

CD が登場した当初から現在に至るまでの CD サウンドの評価ですが、概して次のようなものではないかと思えます：

- 1 アナログサウンドは滑らかである。
- 2 デジタルサウンドはこの滑らかなサウンドを離散化しているのだから、その刻みがより細かくなれば（つまりハイレゾ）よりアナログ（の滑らかさ）に近づく。

私が 5 年前にアナログ再生を再開した理由は 24bit / 192kHz の音楽再生で苦労したからです。音楽ファイルのサイズが音楽 CD に比べて 6 倍以上になって扱い難いし、目指す処がアナログなら最初からアナログ再生をした方がよいと考えたからです。

アナログ再生を開始して、まず感じたコトはアナログの音は音量を上げたくなるという事、これは CD の再生ではなかったことです。

レコードの再生を続けていくうちに、レコードのサウンドが CD サウンドに比べて滑らかだという通念は何だかオカシイと感じ始めました。

そのきっかけはビル・エヴァンスの再発アルバム（ファンタジーの OJC 盤）を再生したことでした。CD で聴くエヴァンスのサウンドは滑らかです。しかしアナログディスクで聴くエヴァンスのピアノ・タッチは荒々しい。最初、このレコードは制作ミスじゃないかと思いました。しかし 4、5 枚ある手持ちのアルバム全てでそうなのですから、エヴァンス本来のピアノ・タッチはけっこう荒々しいのだという結論にならざるを得ません。

そこでハッと気付きました。

何故 1959 年の “Kind of Blue” を録音した時点ではあれ程ナイーブで内気な青年が晩年にはヒゲもじゃのアルコール・麻薬漬けになってしまったのか？

何故ピアノ・トリオというフォーメーションにこだわって、(メロディ語を語る) スコット・ラファロというベース奏者を重用したのか？

何故ヨーロッパの白人ジャズ社会へ移らなかったのか？

一言でいうと「エヴァンスは苦しみながらピアノを演奏していた」ということになります。

私は本来のエヴァンスらしさが一番出ている演奏は'Peace Piece'じゃないかと思うのですが、もうこれは通常のジャズとは言えないかもしれません。

それはともかく、アナログ・レコードの再生をしなければ「エヴァンスはジェントルなピアノの弾き手」だと思っていたに違いありません。アナログの再生を再開したことでこうした誤解を解消する事が出来たのだと思います。

さて、改めて CD サウンドについて私の印象を整理してみますと、全般的に不自然に滑らかだということです。つまりメリハリが無く、音のカドが取れて丸いサウンドになり、聴き易いといえば聴き易いということになります。さらに気付いたコトですが、CD の音圧のバラつきはアナログレコードに比べて少ないという事、せいぜい±2dB といったところです。アナログレコードの場合は少なくとも±7dB。

何故このような事態になってしまうのか？

まずデジタル録音についてです。バカチョン・カメラではありませんが、手元にある KORG の MR-2 という携帯録音機は DSD 録音が可能、ピークカットの設定も出来ます。AUTO モードにすればダイナミックレンジの広い生音を意図的に狭いレンジに押し込めて録音する事も出来ます。

専用のソフトウェアをパソコンにインストールして録音データをパソコンに取り込めば、データを編集して CD 化が可能です。

一見すると素人でも高音質な音源をお手軽に作成出来る仕組みです。

しかし実際にその音質はどうかというと、残念ながら音楽 CD の再生音によく似ています。その理由は正直言ってよく分かりません。

ただし気になっている事項は幾つかあって、それは次のような事柄です：

- 1 パルス音の処理がアナログ録音とは異なる？
- 2 ソフトで様々な処理をするので、時間遅れが生じる。
- 3 デジタル録音はアナログ録音に比べてオーバー・レベルに弱いので「攻め」のレコーディングがやり難い？
- 4 CD の制作はアナログレコードの制作に比べて「縛り」がキツイ？

おそらく他にもいろいろな事由があって、デジタル録音/処理で本当の「音楽の力」を感じとれるような音源を作成することは実は大変難しいのではないかと私は考えています。パソコンも含めてデジタル機器は殆どブラックボックスと行ってよいし、作業に使用するソフトウェアは千差万別です。これらの挙動・特性に精通することは極めて困難なのではないでしょうか。あるいはデジタルの世界はまだ未成熟というコトなのか・・・。

最後に、少し長くなりますが、ご参考になると思いますので故瀬川冬樹氏の「オーディオABC下巻」(1977年) p.148 から下記を引用させていただきます：

VUメーターが振り切れっ放し！

もう6、7年前のことになると思います。私の尊敬する友人である菅野沖彦氏が、アメリカのオーディオ関係のメーカーや録音スタジオを見学して帰ってきた時の話です。

当時のアメリカでは、ほとんどの録音スタジオが、アンペックスのスタジオ用デッキで仕事をしていました。アンペックスはプロ用の分野で最も有名なテープレコーダーのメーカーのひとつです。そのデッキを使って、あるスタジオで録音するところを見てきた菅野氏が、日本に帰ってくるなり、目を丸くして私に言ったのです。

「いやあ、驚いたよ。VUメーターの針なんて、振り切れっぱなしでほとんど動かないの。

たまァに0VUのところに戻ってくるっていう感じ！」

誤解のないように補足しておきますが、これは、レコードやミュージックテープや放送などの、《商品としてのプログラムソース》のもとになる、いわゆるマスターテープを作る時の過程での話です。こうして録音したマスターをもとにして、リミッターを通したり音量の幅をおさえたりして、再生機器一般のDレンジに合わせたプログラムソースに仕上げるのです。それ以前の、いわば原器としてのプロ用デッキが、いかにタフであるかの例としてこの話を持ち出したのです。

エピローグ

音楽再生の醍醐味というか、達成感・到達感、これは一度体験してしまうと、もう二度と後には戻れません。

今までのほぼ50年間にわたる苦労というか不満が走馬灯のように思い浮かびます。

音楽の聴き手という立場からすると、今、現実に手に入る良い音源を見つけ出すことがとても大切です。ベストでなくともセカンド・ベストでいいと思います。

ジャズ音楽史に名を残したプレーヤー達の演奏、その音楽の力の凄みは半端なものではありません。それを是非体験していただきたい、これが本小論のただひとつの目的です。

“Kind of Blue”は静かで叙情的なアルバム？ 冗談じゃありません！

本紙と併せ、別紙「体験的音源系統図（起用すべき音源とは?）」を眺めていただければ幸いです。